

「見通し」と「振り返り」の充実で学力向上を

— 計画的・組織的な授業改善の取組を —

山口県教育庁義務教育課

「学習の見通しを立てる活動」と「学習を振り返る活動」の目的

授業改善のポイントとして、授業前半の「学習の見通しを立てる活動」と、終末の「学習を振り返る活動」があります。「見通し」と「振り返り」を取り入れる目的は、「学習意欲の向上」「学習内容の確実な定着」「思考力・判断力・表現力等の育成」です。学習指導要領総則編では、これらの活動の充実が求められており、相互に関連をもたせることが重要です。

「学習の見通しを立てる活動」とは・・・

「児童生徒が学習の見通しを立てる活動」として、次のようなことが考えられます。

- ☆ その授業で何が分かるようになるか・何ができるようになるかをイメージする
- ☆ その授業で考えてみたいことを発見し、問いをつくる
- ☆ 問いを解決するために、有効だと思う方法や手がかりとなるものを発見する
- ☆ 問いを解決するために、どのような活動に、どのような順序で取り組むのかイメージしたり、どのような点に留意すべきかを意識したりする など

→授業の目標（ねらい・めあて）を提示し、共有することは、「見通し」の要になります。
めざす姿を教師と児童生徒が共有することで、学習に意欲的に取り組むことができます。



児童生徒が授業の目標（ねらい・めあて）を理解して授業に臨むことができるよう、分かりやすい表現を心がけましょう。

めざす児童生徒の姿や教科等の特性、児童生徒の発達の段階などに応じて、さまざまな活動が考えられます。実施のタイミングも授業によって異なります。



「学習を振り返る活動」とは・・・

「児童生徒が学習を振り返る活動」として、次のようなことが考えられます。

- ☆ その授業を通じて何が分かったのか・何ができるようになったのかを整理する
- 整理する視点は…
- 分かるようになる・できるようになるまでの過程をたどる
 - 有効であった方法や手がかりとなったものを発見する など

→授業の終末に行う「授業評価」は、「学習を振り返る活動」とは異なるものです。
それぞれの目的をきちんと理解して、適切に働きかけることが求められます。

| | 対 象 | 目 的 |
|----------------|-----------------------------------|-----------|
| 児童生徒が学習を振り返る活動 | 授業における児童生徒の学習全般 (学習内容・学習方法の両方) | 児童生徒の学力向上 |
| 授業評価 | 授業における教師の指導全般 (発問、板書、説明の仕方など) | 教員の授業改善 |



「振り返る活動」の時間を十分確保することが大前提です。計画的に授業を進めましょう。また、児童生徒の発言や学習活動をもとにした振り返りを行うことで、児童生徒の主体的な取組を促すことができます。

めざす児童生徒の姿や教科等の特性、児童生徒の発達の段階などに応じて、文章記述や類似問題による確認、友達への説明など、さまざまな活動が考えられます。

